

IR・SD 推進本部が実施している教学 IR の主な内容・改善事例

IR・SD 推進本部において調査分析した学修成果、学生アンケート等については、関連する委員会や大学方針を決定する会議体へ報告を行い、各部門における状況把握・改善検討に活用している。

主な分析事例、改善事例は以下のとおりである。

※以下の取組等については IR・SD 推進本部以前の IR・SD 推進室での取組を含む

1. 主な調査・分析内容

1) 学修成果・教育成果関連調査

- ・学年ごと GPA 分布状況<分析結果概要添付>、修得単位数等の把握・分析
- ・教育の質向上委員会が実施する卒業時到達目標アンケート、卒業生アンケート、教員対象カリキュラム評価アンケート結果等の分析支援<卒業生アンケート分析結果概要添付>
- ・入試区分ごと、面接結果ごとの入学後成績、国家試験合否状況、学籍異動等の調査・分析
- ・国家試験結果分析（合否結果と各学年次の成績、模試、入試区分等との関連性分析）

2) 学修行動調査

学生の学修時間や学修への意欲等の調査・分析<分析結果概要添付>

3) 授業評価アンケート結果

教育の質向上委員会が実施する授業評価アンケート結果の総合評価の分析<分析結果概要添付>。

教育の質向上委員会において、授業評価アンケート結果を受け、科目責任者に対し次年度に向けた考察と課題の提出を依頼することで授業改善に繋げている。

4) 学生満足度調査

教育内容・教育方法、学修支援、図書館、施設関係等に関する学生満足度を調査・分析。その結果を各種委員会等へ通知、各種委員会において対応・改善策を検討し、学生へ開示。

2. 主な分析結果

1) 学修行動調査

1) 自己学修時間数

自己学修時間：授業の予習・復習や国家試験対策など授業時間以外の学修時間

1週間のうち自己学修した日数

1週間のうち最も多かった自己学修時間

1週間のうち最も少なかった自己学修時間

0～30分未満、30～60分未満、60～90分未満、90～120分未満、120～240分未満、240～360分未満、その他（実数）

分析方法

学修時間の計算：選択肢の中央値で数値化し、最小と最大の平均を1日平均自己学修時間数（分）とした。1週間のうち学修した日数を乗じ、1週間平均自己学修時間数（時間）とした。

2) 学修行動の自己評価 33項目（令和6年度調査は32項目）

5段階選択肢（とてもそう思う、ややそう思う、どちらでもない、そう思わない、全く思わない）
逆転項目に配慮し、学修態度や認識が望ましいと高くなるよう1～5点を配点

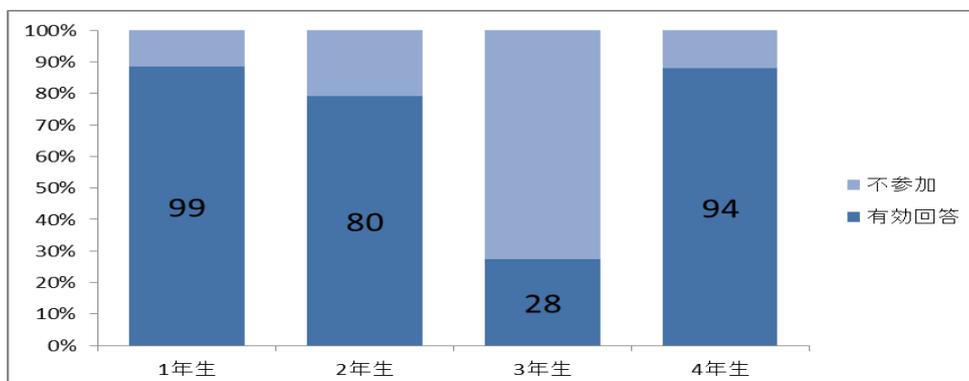
【令和5年度（後期）調査】

対象者 422名（休学者除く） 回答数 312名（回収率：73.9% 前年度比 90.3%）

有効回答数 296名（有効回答率：70.1% 前年度比 95.6%）

調査期間：令和5年10月2日～10月20日

図1 回答率



学修時間

1. 自己学修時間の学年比較及び過年度比較

本学では、学生の学修への意欲や取組み状況を把握し、その結果を学修支援に役立てるため学修行動調査を実施しています。調査の一項目として、授業以外の「自己学修時間（分）」についても調査を実施しています。全体および学年別に集計した結果は以下のとおりです。

学修行動調査における授業以外の1日あたりの自己学修時間（分）

※ヒストグラムの横軸は時間（分）、縦軸は度数を表す

図2 1週間平均自己学修時間（全校）年度間比較

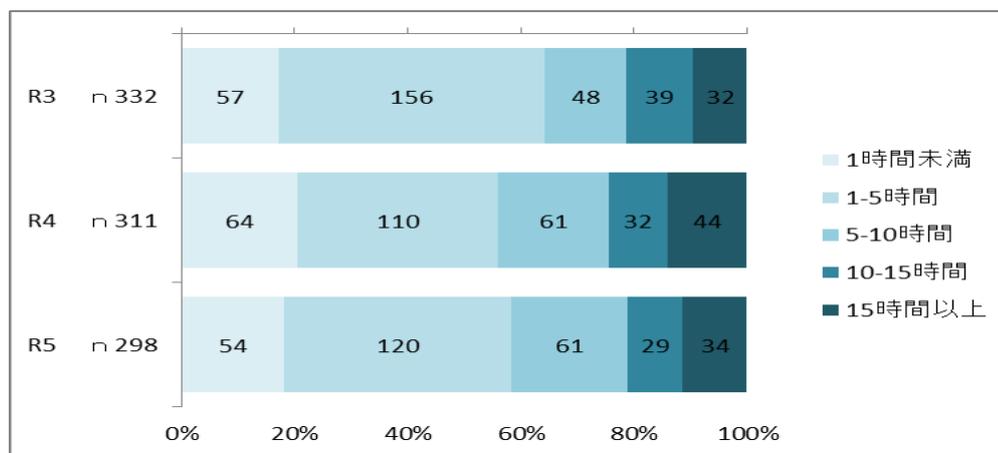
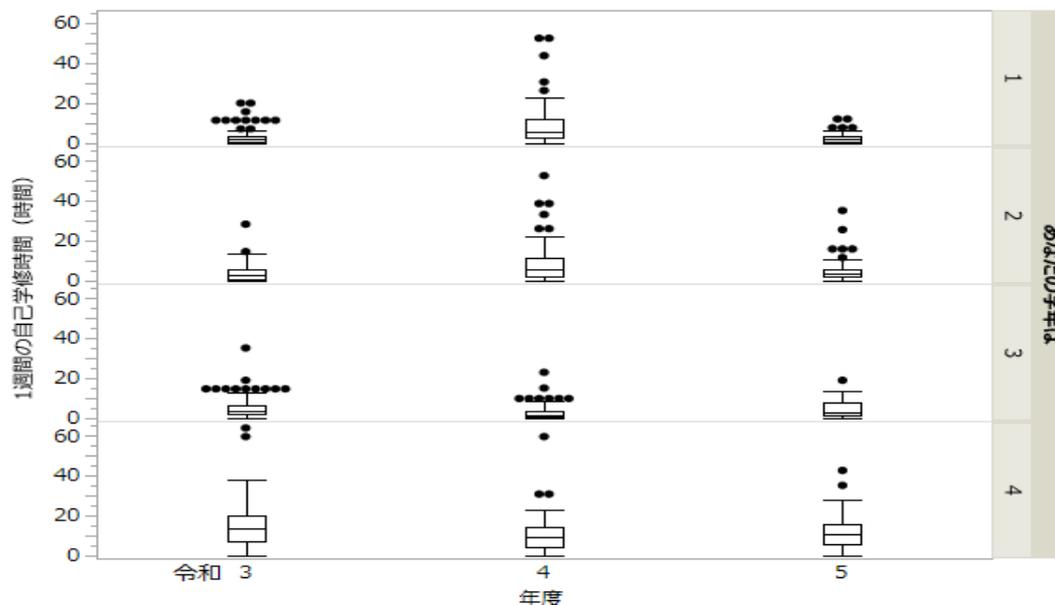


図3 1週間平均自己学修時間（学年）年度間比較

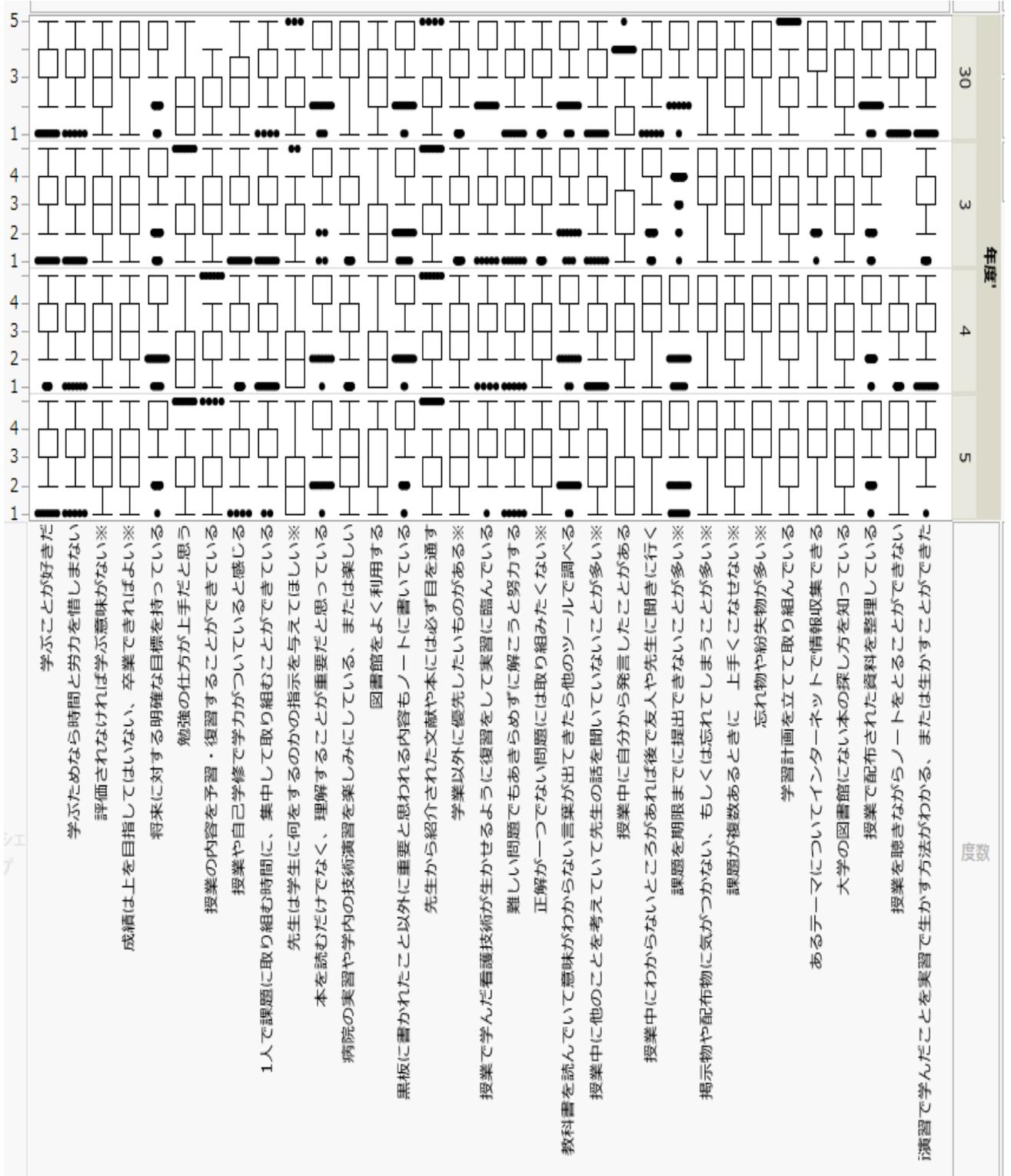


全体として、3年生は実習中のため、記録を学修時間としてカウントしていない可能性があり、全年度で短く、4年生は国家試験対策のため、学年の中では長い傾向にある。R5年はR4年と比較して、1、2年生が短く、3、4年生は長くなっている。

学修実態（学修行動調査）

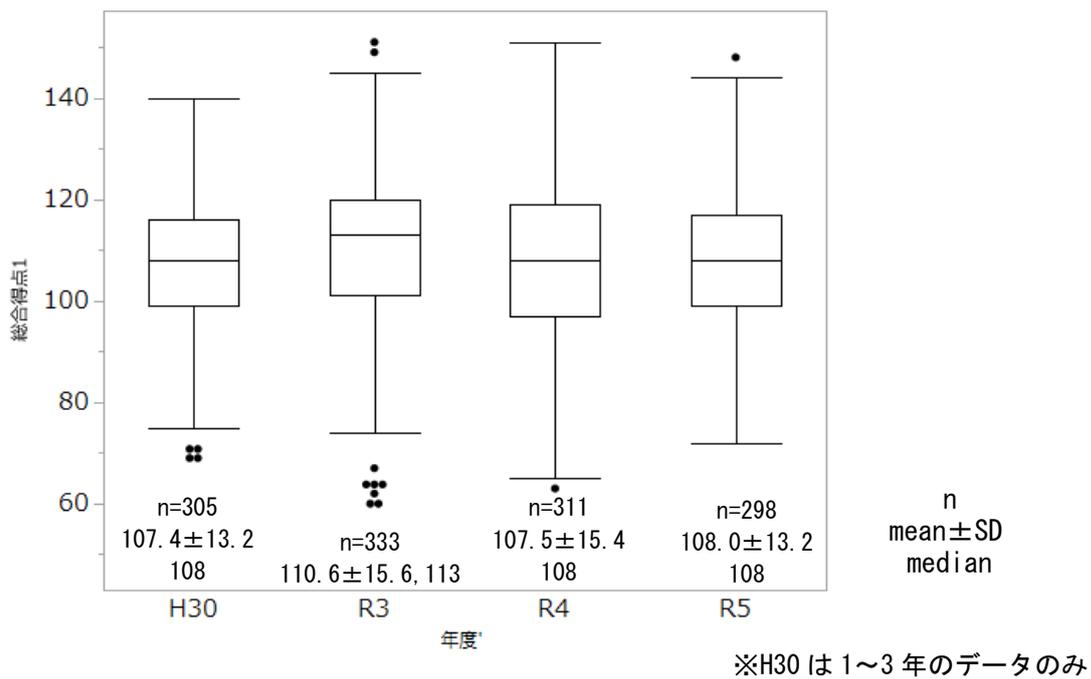
図4 学修行動調査（全学年）年度間比較

学修行動は、点数が高い方が望ましい学修態度や行動がとれていることを示す。



※逆転項目に配慮し学修行動が望ましいと高くなるように配点

図5 学修行動総合得点（全校）年度間比較



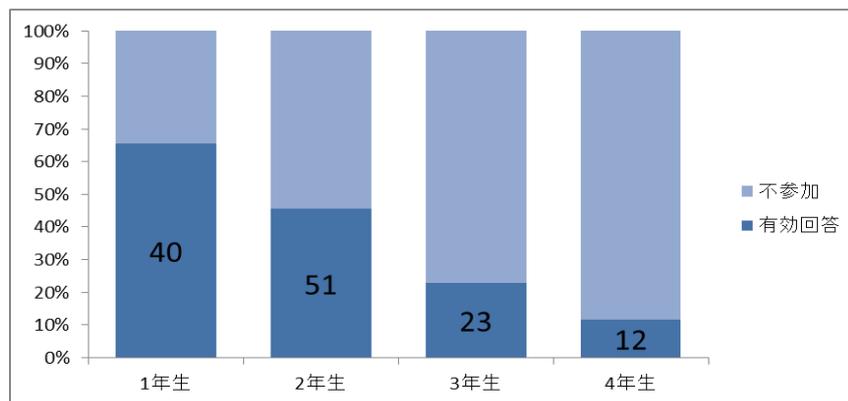
【令和6年度（前期）調査】

対象者 375 名（休学者除く） 回答数 138 名（回収率：36.8% 前年度比 49.7%）

有効回答数 126 名（有効回答率：33.6% 前年度比 47.9%）

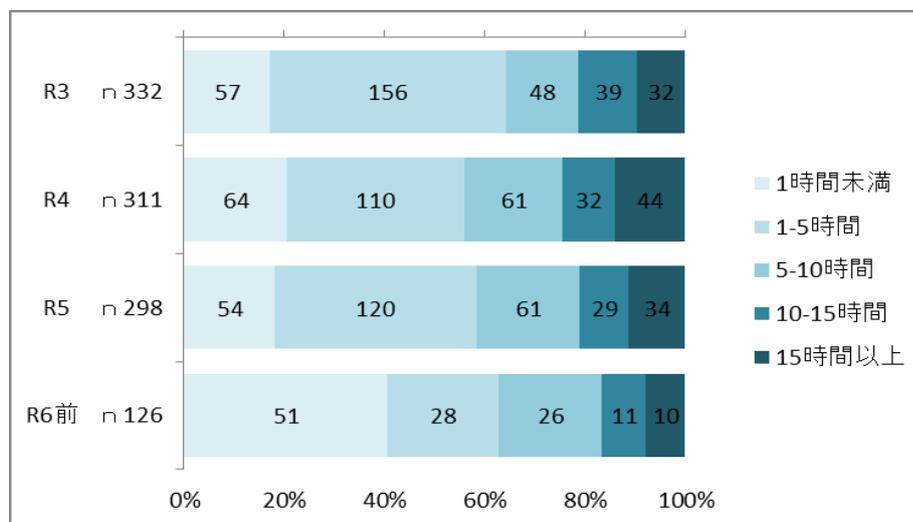
調査期間：令和 6 年 6 月 21 日～7 月 19 日

図 1 回答率



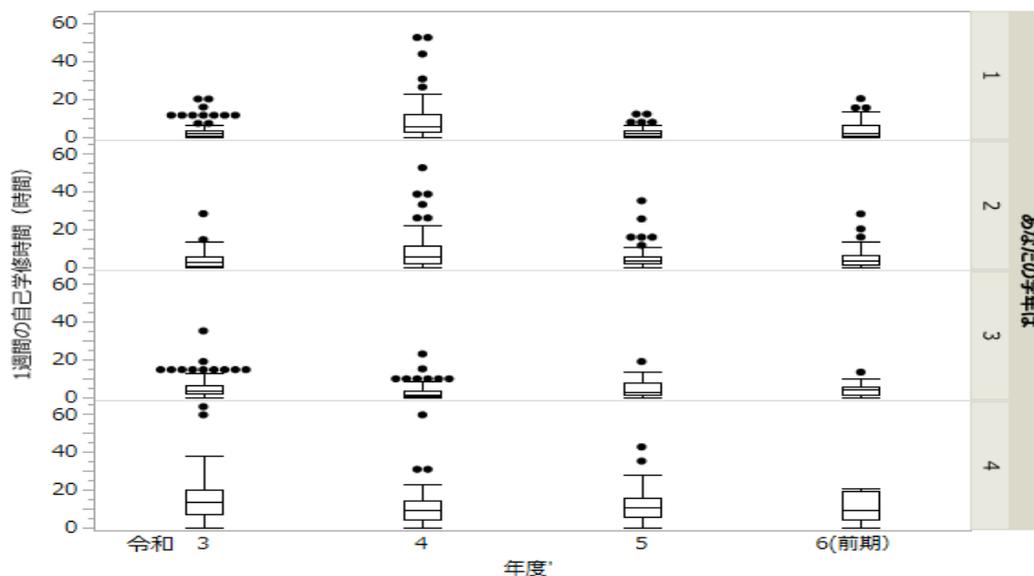
学修時間

図 2 1 週間平均自己学修時間（全校）年度間比較



学修時間が 1 時間未満の者の割合が多いのは、調査時期が前期と後期で異なるためかもしれない。また、4 年生の回答者が少ないことも要因であると思われる。

図3 1週間平均自己学修時間（学年）年度間比較

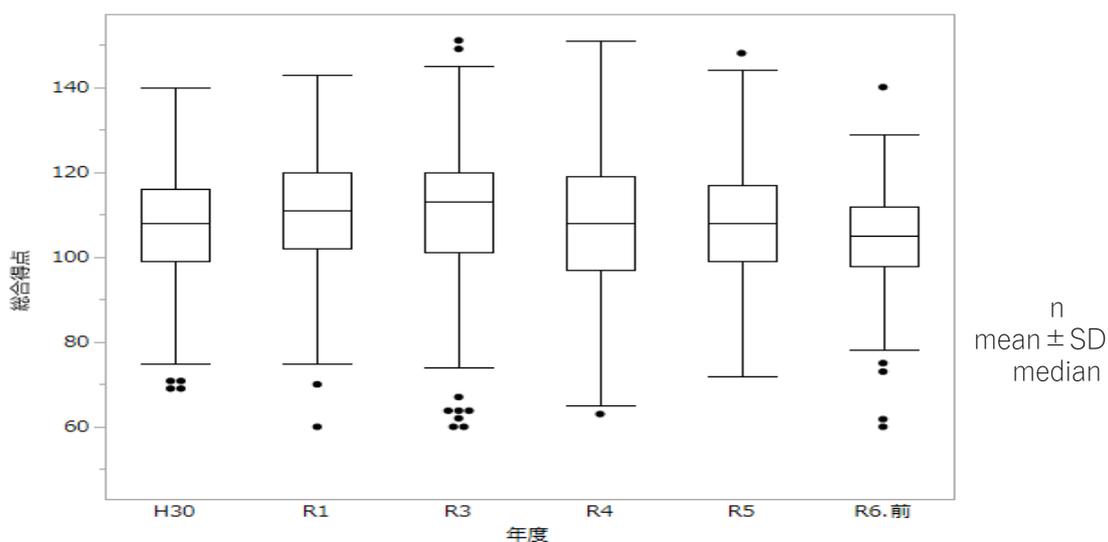


全学年で3年生が短いのは、例年、実習中のためと考察していたが、今回は前期の結果であり、学修行動が取れていない可能性がある。4年生は国家試験対策のため、学年の中では長い傾向にある。R6年はR5年と比較して、1、2年生が長く、3、4年生は短くなっている。ただし、今回は前期の調査（他年度は後期）であり、その影響の可能性もある。

学修実態（学修行動調査）

図4 学修行動調査（全学年）年度間比較

学修行動は、点数が高い方が望ましい学修態度や行動がとれていることを示す。以下は全設問項目（32項目）の合計点の年次別比較



H30 年度は1～3年生のデータのみ

2) 授業評価アンケート結果

本学では、教育内容・教育方法の改善を目的に全科目について学生による授業評価アンケートを実施しています。アンケートは12の質問項目から構成され、今回、科目の総合評価である「本講義に対する総合評価はどうでしたか」に対する集計結果（令和五年度調査；看護学部集計分）を公表（表1）します。

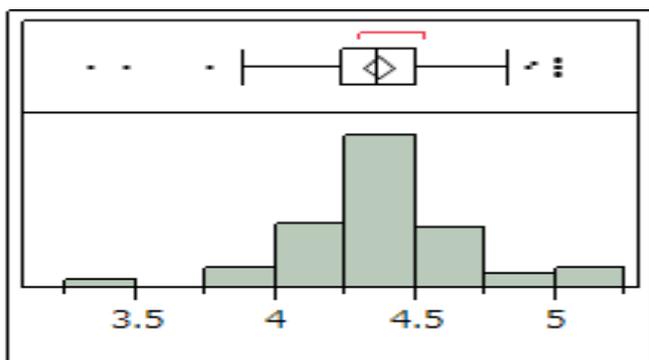
令和四年度の総合評価結果（平均値4.32、中央値4.33（表2））と比較し（令和五年度実績：平均値4.36、中央値4.37）、若干の上昇となりましたが、過年度と比較しても、ほぼ同程度の結果となり、また、評価4は「よい」を意味しており、平均・中央値とも4「よい」を超える結果となりました。

各科目単位の結果を科目責任者に返却し、その結果を踏まえ「考察と課題」を科目責任者が提出することで授業改善に繋げていきます。

（表1）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和五年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない

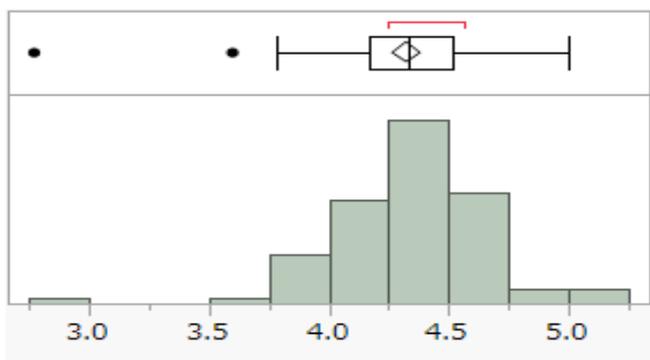


科目数	110
平均	4.36
標準偏差	0.29
中央値	4.37
範囲	3.33- 5.00

（表2）

『本講義に対する総合評価はどうでしたか』に対する全科目（実習科目を除く）の集計結果（令和四年度）

5. 非常に優れている 4. よい 3. 普通 2. やや劣る 1. よくない



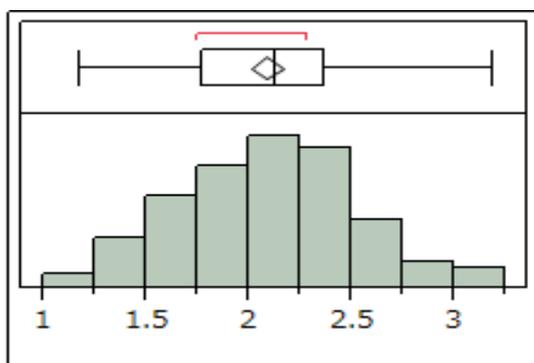
科目数	112
平均	4.32
標準偏差	0.30
中央値	4.33
範囲	2.77- 5.00

3) 学内試験結果：GPA分布

本学では、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と適切な学修指導に資することを目的に、各授業科目の成績評価に対応してグレード・ポイント（「GP」）を付与して計算する1単位当たりのGPの平均値（GPA）を採用しています。本学では、通常の5段階評価（10点区切り）に基づく計算でなく、より厳格な数値の算出が可能となるように1点単位でのGPAを計算しています。（例：78点のGPは $(78-55) \div 10 = 2.3$ ）

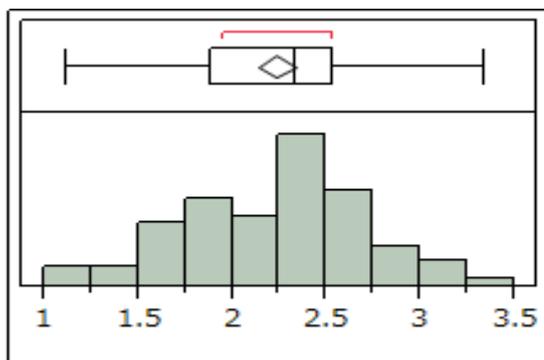
以下に、令和五年度に各学年（看護学部）が履修した必修科目のGPAの分布状況を示します。令和四年度（中央値：学部1年 2.0、学部2年 2.2、学部3年 2.2、学部4年 3.4）の結果と比較すると（令和五年度中央値：学部1年 2.2、学部2年 2.3、学部3年 2.3、学部4年 2.7）、学部1～3年で、中央値がやや上昇しましたが、学部4年では減少し、例年程度（令和3年度2.9）となりました。また、各学年の科目内容にも影響しますが、上級学年になるにつれて、中央値が上昇する傾向が見られました。なお、各学年により履修科目が異なるため、学年ごとの学力状況を比較するデータではありません。

令和五年度 1年生GPA分布（1年次必修科目）



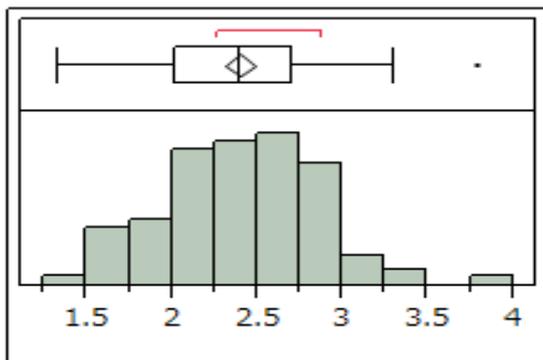
最大値	3.2
四分位点	2.4
中央値	2.2
四分位点	1.8
最小値	1.2

令和五年度2年生GPA分布（2年次必修科目）



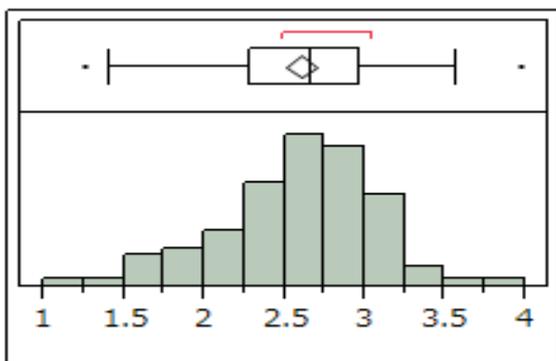
最大値	3.3
四分位点	2.5
中央値	2.3
四分位点	1.9
最小値	1.1

令和五年度3年生GPA分布（3年前期必修科目）



最大値	3.8
四分位点	2.5
中央値	2.3
四分位点	1.9
最小値	1.1

令和五年度4年生GPA分布（3年後期～4年次科目必修科目）



最大値	4.0
四分位点	3.0
中央値	2.7
四分位点	2.3
最小値	1.2

卒業生アンケート 集計・分析結果（令和5年度調査）

1. 調査対象：令和2年度看護学部卒業生 99名
令和4年度看護学部卒業生（令和5年度専攻科・大学院入学者等を除く）96名
2. 調査方法：卒業時調査での住所への郵送及び聖マリア病院就職者については看護部の協力を得て病院内メールボックスへ投函
3. 調査時期：2024（令和6）年3月中旬～3月末（締切後、5月末までで再依頼）
4. 回答者数/回答率：32名（令和4年度卒18名、令和2年度卒14名/1）／16.4%
※宛先不明等で郵送不可を除いた回収率約19%
5. 質問内容：
 - ディプロマ・ポリシー記載事項が大学での学びや経験で身についたか、仕事に活かされているか（5段階評価）
 - カリキュラムに関する意見（自由記載）
 - 就職・進学の現状と今後の希望等
 - 在学中の支援等についての満足度（学生生活支援/学修支援/キャリア支援/国試対策/施設・設備）

質問項目詳細

<大学での学びや経験で身についたと思うこと、仕事に活かされているかどうか>

- ①カトリックの愛の精神に基づく人間性（人間の尊厳の理解、ケアリングの実践等）
- ②豊かな人間性の基礎となる教養、③看護実践に必要な基本的かつ専門的知識
- ④看護実践に必要な基本的技術、⑤論理的、科学的思考力、科学的根拠に基づく看護提供、⑥問題解決力、判断力、⑦リーダーシップ、⑧協調性、フォロワーシップ
- ⑨コミュニケーション力、⑩国際的な視野、⑪地域に貢献する姿勢、⑫主体的探求力
- ⑬大学での授業全般について

<自由記述>

- ①本学で看護学を学修したことは、看護師としての実践や、成長にどのように活かされていますか。本学で看護学を学んだことについて
- ②臨床実践に取り組まれている中で、もう少し大学生の期間に教育を強化した方がよかった点や、本学のカリキュラム（教育課程）にさらに期待される内容

<在学中の支援等についての満足度>

- ①教職員による学生生活支援、②教員による学修支援、③キャリア支援（就職、進学への支援等）、④国家試験対策、⑤施設・設備

学修成果、教育成果、カリキュラム関連回答に関する総括

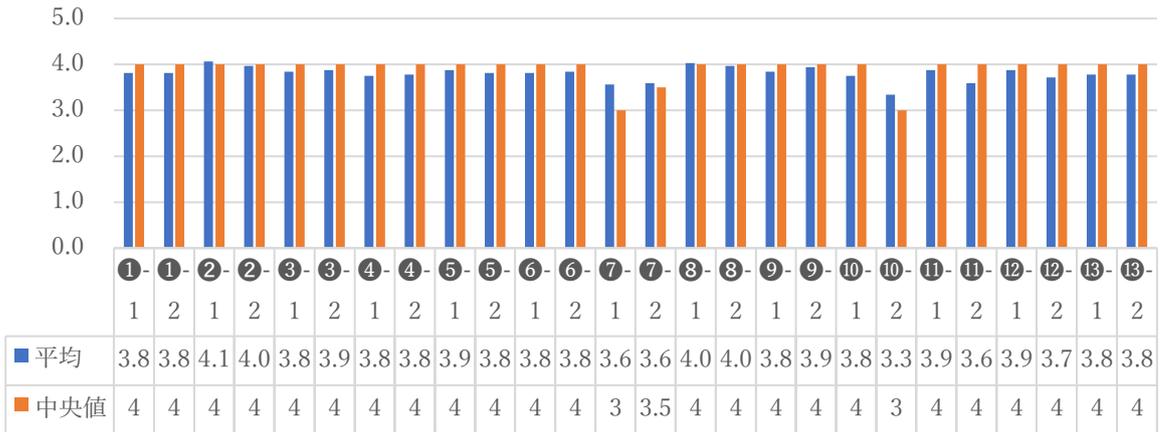
ディプロマ・ポリシーに関連する事項に関し、“大学での学びや経験で身についたかどうか、また、その能力は仕事に活かされているか”の設問（令和2年度卒業生・令和4年度卒業生の総合結果）において、26項目中、23項目で中央値が4（概ね身に付いている）となり、また平均値においても、25項目において3.5以上となり概ね良好な結果となっている。平均値が4.0を超えたのは4項目であり、豊かな人間性の基礎となる教養<身についた/仕事に活かされている>、協調性・フォロワーシップ<身についた/仕事に活かされている>であった。一方、平均値が3.5を下回ったのは国際的な視野<仕事に活かされている>の1項目であったが、勤務先の国際活動状況や配属先の影響が大きいものと考えられる。また国際的な視野については、最も良い評価である“5”と回答した率は高く二極化の傾向も見受けられた（コース履修の有無による可能性）。

令和2年度卒業生と令和4年度卒業生を比較すると、回答者数に差はあるものの、全体的に令和4年度卒業生の方が良い結果となっており、令和4年度卒業生では平均値が3.5を下回る項目はなかった。

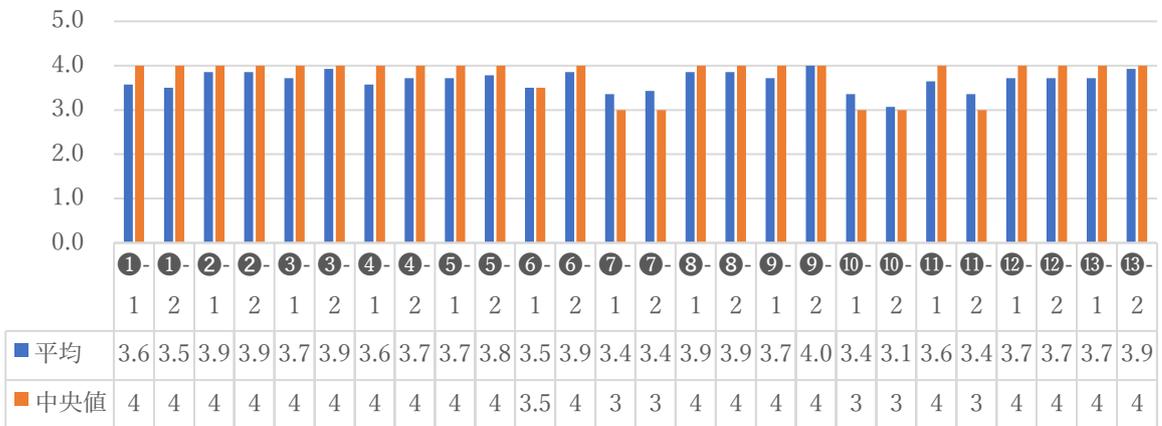
自由記述では、「カトリックの愛の精神に基づいた看護を学び、より人に寄り添った看護を実践できている」「疾患中心で患者さんを診るのでなく、患者さん自身を1人の人間として捉えて、その人の生活がより豊かになるにはどう関わるべきなのか、その人自身がその人らしい生活を送るためにはどうすればいいのか、何を充足すればいいのか考えて行動することに活かされている」「急性期病院ということもあり、患者さんと話す時間は限られているが、その中でもカトリックの愛の精神で学んだ患者の話を傾聴し愛を持って接することができ、限られた時間の中でも信頼関係を構築できている」など、建学の精神・教育理念に基づく教育が実践においても活かされていることへの意見が最も多かった。

“大学生の期間に教育を強化した方が良かった点、カリキュラムにさらに期待する内容”を聞いた自由記述では、本調査対象者がコロナ禍での学修となった学生である影響もあるが、看護技術・演習に関する意見が見受けられた（オスキーについては良かった点としてもあげられている）。

令和2年度卒・4年度卒総計

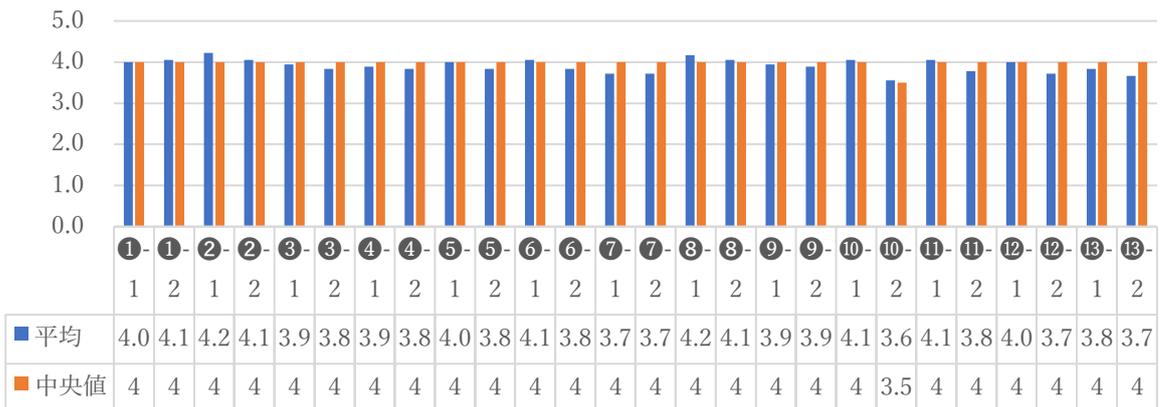


令和2年度卒業生結果



令和2年度卒の全項目の平均値：3.66

令和4年度卒業生結果



令和4年度卒の全平均値:3.91

※各項目の平均値は小数点第2位を四捨五入

5：とても身についた/とても活かされている 4：概ね身についた/概ね活かされている

3：どちらとも言えない/現時点では活かされていないが将来活かされると思う

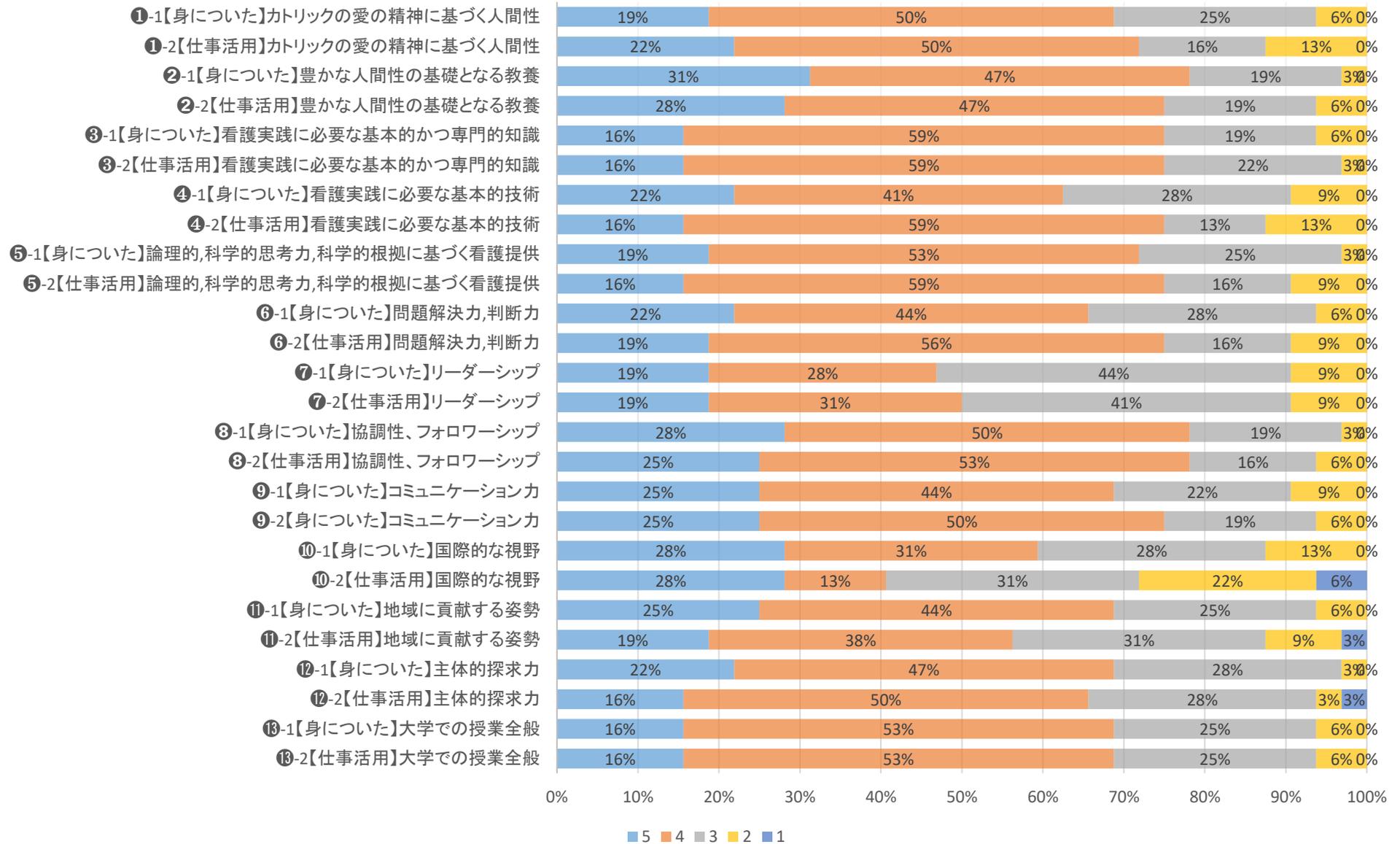
2：あまり身につかなかった/あまり活かされていない

1：全く身につかなかった/全く活かされていない

※表中の①～⑬は1ページ記載の質問番号

(①の下の1は大学での学びや経験で身についたか、2は仕事に活かされているか)

各設問の5段階評価の回答率(令和2年度卒・令和4年度卒合計)



就職・進学の実況と今後の希望等

設問：現在の勤務先や進学先（転職等の有無）

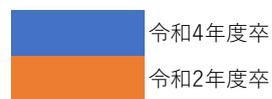
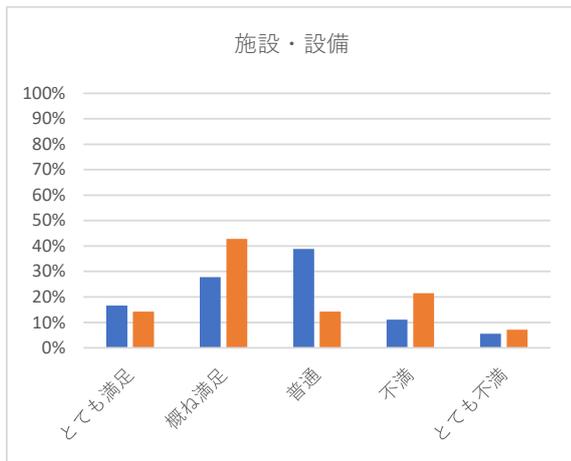
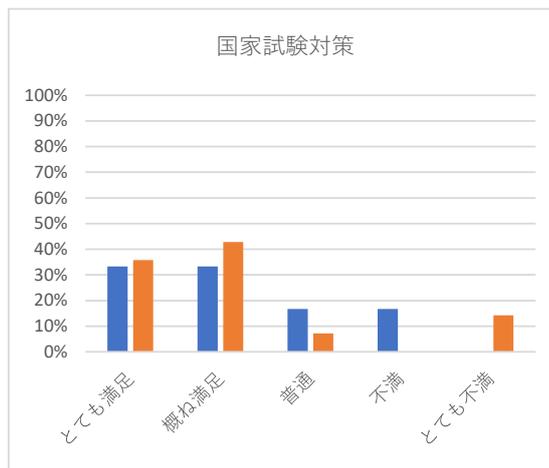
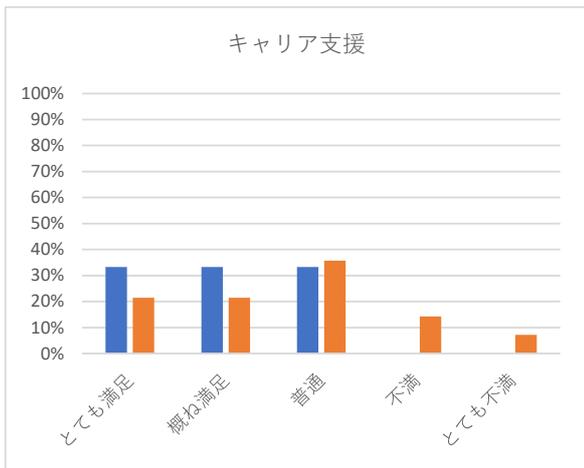
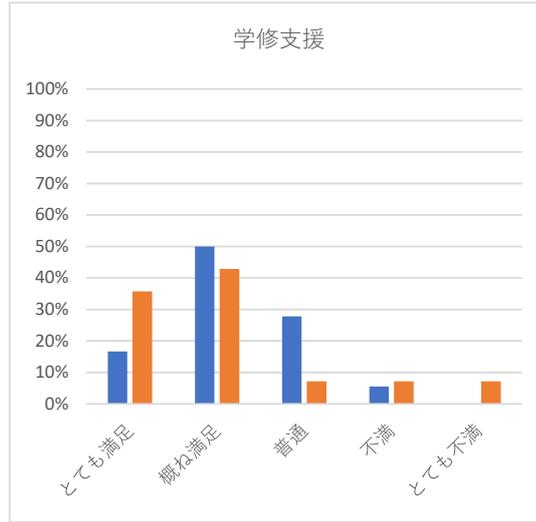
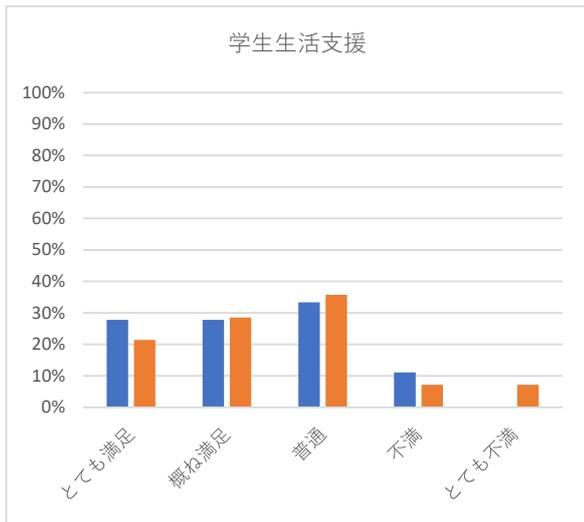
	令和4年度卒(回答18人)		令和2年度卒(回答14人)	
	人数	割合	人数	割合
卒業時と同じ	17人	94%	11人	79%
卒業後に転職	1人	6%	2人	14%
その他	0人	0%	1人	7%

設問：今後のキャリアアップ希望

	令和4年度卒(回答18人)		令和2年度卒(回答14人)	
	人数	割合	人数	割合
大学院博士課程進学	1人	6%	0人	0%
大学院修士課程進学	3人	17%	0人	0%
専門看護師	7人	39%	0人	0%
認定看護師	4人	22%	1人	7%
研究・教育職	1人	6%	0人	0%
特になし	8人	44%	13人	93%
その他	0人	0%	0人	0%

※複数回答のため合計は100%を超える

在学時の支援等に関する満足度



3. 主な改善事例（過年度事例含む）

- ・学修行動調査（課題重複時の対応困難さ）、学生満足度調査の結果を受け、多重課題とならないよう、課題提示状況一覧の作成と学内教員における情報共有を企画、また、コロナ禍、図書館利用に関する調査結果が低下することも予想され、図書館において、学外からの文献へのアクセス可能なシステムを開始（結果としてアクセス数はコロナ禍前より増加）。
- ・学生満足度調査結果、学修行動調査、国試結果分析等（低学年からの就職・進学支援の希望、学修時間の学生間差、自己学修時間の減少傾向、国試結果と学内・模試成績関連分析等）を受け、低学年からのキャリアガイダンス（看護専門職になるための今後の学修への動機付けを含む）、低学年からの学生の主体性を踏まえた学修支援の方法・内容の検討・継続。
- ・学生満足度調査結果における学修環境整備への意見を踏まえ、パソコン室パソコンのスペック向上、講義室 AV 機器（プロジェクター、スクリーン等）性能向上、授業時長時間着席できる椅子クッションの整備、また学生同士が教え合いながら学修できる環境（場所）への要望に対しては、会話しながらの学修が可能な学生ラウンジ開放を再開。
なお、学生満足度調査結果に関しては、学生からの意見を踏まえて大学（各委員会等）からの学生への対応回答を公表。
- ・授業評価アンケート結果を踏まえた個々の科目レベルの改善については、結果を受けて科目責任者が「考察と課題」を提出、公表可としている内容については、学生へ公表。
- ・入試区分別の学修成果（特定入試区分における入学後高リスク<学籍異動、国試合否状況等※詳細分析結果は学外非公表>）を踏まえた、当該入試区分定数の見直し。